

# デザイン学部

デザイン学科准教授 櫃田 珠実

## 1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等・論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
◎展覧会			
福島現代美術ビエンナーレ 2010	2010. 10. 16 ～10. 24	福島県文化センター 企画・主催／福島現代美術ビエンナーレ実行委員会、国立大学法人福島大学芸術による地域創造研究所 福島県文化振興事業団 文化庁芸術団体人材育成支援授業	第4回日の福島現代美術ビエンナーレで「HANA」をテーマに河口龍夫、中川幸夫、蛭川実花、荒木経惟、太田三郎、草間弥生、平山素子など55名が出品。地域住民と「同時代の美術、多国籍の若手作家」との交流、大学機関と地域が連携を採った企画。子供たちに向けたワークショップなども開催し多様な現代美術作品に親しむ。
Art in an Office	2011. 1. 8 ～3. 27	主催／豊田市美術館 協力／豊田商工会議所、トヨタ自動車株式会社	一印象派、近代日本画から現代絵画まで ＜Nowhere-garden＞120×80cm パワープリント、アクリルマウント
◎その他作品			
COMME des GARCONSの広報用パンフレット“8”への写真作品提供	2010. 9	東京都港区南青山 コムデギャルソン	コムデギャルソンのメインDMで、メイン作家の中に別の作家をいれるという企画。艾未未アイ・ウェイウェイ氏（北京オリンピック鳥の巣の芸術顧問、現代美術家、建築家、社会活動家）の写真の中に作品がコラボされた。A4サイズ変形ブック形式10P。
原田マハ著小説「花々」のカバー写真	2009. 3より現在に至る	宝島社	原田マハ著小説「花々」のカバーに作品「Floating World」が使用される。
◎講演会の企画			
写真家ホンマタカシ氏によるワークショップと講義3回シリーズ	2010. 10～11	名古屋芸術大学 デザイン学部、名古屋芸術大学後援会	名古屋芸術大学創立40周年イベントとして＜メディア系＞講演会を企画。MCD企画は写真家ホンマタカシ氏によるワークショップと講義を3回シリーズで行なう。
◎デザインワーク			
＜メディア系＞講演会のA4フライヤーの制作、デザイン	2011. 9	名古屋芸術大学後援会、デザイン学部	デザイン学科MMDとMCDコースで行なったメディア系講演会のフライヤーを制作した。あいちトリエンナーレ関連施設で配布した。
『MCDMIX』MCD紹介用小冊子の編集とデザイン、写真撮影	2011. 3	名古屋芸術大学後援会、デザイン学部	A5サイズ 変形ページ 全22P。ホンマタカシ氏の講演会の記録と、MCDコース第1期生の卒業制作作品とコース紹介をまとめた小冊子を発行した。

## 2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

f 教育内容・方法の工夫および作成した教材・資料等	g その他教育活動上特筆すべき事項
---------------------------	-------------------

授業科目 デザイン概論		各デザインコースからの紹介の前に、入学案内の先生方の写真を使ったパワーポイントによるデザイン学部全体の紹介を行なっている。学生へのアンケートを実施し学生の実態を細かく集計し学生へフィードバックすることで、学生間の理解を深める効果がある。
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
パワーポイントによるコース説明と学生作品の紹介。	卒業制作作品、特別講師の映像、関連映像などの資料を用いる。	
授業科目 大学院 メディアデザイン特論		
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
メディアデザイン、メディアアートの作品を紹介し多方面に拡大するメディアの概念と作品を知り理解し、現在それぞれのメディア研究分野に応用する。	配布プリントと映像資料、参考図書	
授業科目 デザイン実技Ⅱ -1 (MC) MCD		100枚のドローイングからイメージを選び、リトグラフの技法を使って表現する。色彩の重なりを意識することができる。コンピュータを使ったデザインでは情報の整理を学ぶ。
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
頭で考えたイメージを手を動かし描いて表す基本を身につける重要性を伝えるため、ドローイングを100枚以上描いてから版画のイメージに展開する。版画技法と同時にコンピュータをつかったデザインも進める。	リトグラフの技法手順の資料 伝えたい情報のために学生自身の好きな分野の資料を持参させる。	
授業科目 デザイン実技Ⅲ -1 (MC) MCD		絵本原画の制作に重点を置くだけでなくフォントやレイアウトデザインにも配慮する。オープンキャンパスやコース展、学外展示などで公開展示することを想定し、作品の完成度を高めるよう指導する。
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
前年の課題からの発展で、2冊目の本を制作する。続けて本の制作に取り組むことで、絵と文章、編集、製本とよりオリジナル性の高いものへと発展させることができる。	様々な本の形態や多様な技法で描かれた絵やイラストを知るために、美術とデザインの区分なく参考図書を用意する。また前年度の学生制作の参考作品をみせる。	
授業科目 デザイン実技Ⅳ (MC1) MCD		前期終了時にアート&デザインセンターで展示講評を行う。 ポスター制作の課題で卒展のポスターに取組んだ学生が学内審査で選ばれ実際に卒展ポスター、ハガキを制作した。 (2011年卒業 修了作品展)
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
プレ卒制の提案と社会性公共性の高いテーマでのポスターの制作を行なう。就職活動中の学生が多い時期であるため大学から実社会へ視点を広げること、自分自身のオリジナル性を確認する。パワーポイントや配布資料作成などによるプレゼンテーションを体験することで、コミュニケーションの重要性を理解することができる。	国内外の広告に関する図版資料を参考資料に使用する。パワーポイントによるプレゼンテーション方法を学ぶ。	

授業科目 デザイン実技 I (F2) 後期		
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
色彩課題では、色彩に関する基礎知識とトータルカラーの説明を行い、色の理解を深めてから制作をスタートする。		
授業科目 デザイン実技 II -4 (MC) MCD		
□前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
特別客員教授の授業では、現場の視点からのアドバイスが初心者の学生にとっても良い刺激となっている。担当教員と客員教授とで連携協働して成果の見える制作物となるよう指導している。また版画技法の課題は写真を使ったイメージでスクリーンプリントを実施することで印刷技法を理解する。	版画技法に関する説明資料。	
授業科目 デザイン演習 II -2 (MC) MCD		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
視覚表現においての色彩の重要性と応用力を身につけるために、既存のビジュアルイメージをカラーチャートで分析した配色ブックを制作する。またポートフォリオの制作のため今まで制作した作品の写真撮影、コンセプトをまとめることで総合的なデザイン力の向上を計る。	学生各自がビジュアルイメージを選び資料を収集する。DIC カラーチャートを教材として使用する。	
授業科目 デザイン実技 IV (MC2) MCD 卒業研究 (デザイン) MCD		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
MCD コースができて最初の卒業制作となる。いままで学んできた技法を学生それぞれが選択し卒業制作作品を制作する。本の制作、写真、アートワーク、版画、ウェブと多方面にわたる卒業制作に対応する。	主に画集や専門的な図版などの書籍を使用して指導にあたる。	
		銅版画、リトグラフ、文字デザインポスター、本の制作 (15冊以上) とインスタレーション、写真大判作品、写真・映像・立体ドローイングをミックスさせたいアートインスタレーション、写真エマルジョン作品、ウェブページの制作、立体作品、絵画作品、ポップアップブックの制作とインスタレーション、鉛筆によるイラストレーションなど多彩な作品に対応し展示をおこなった。 卒業制作作品展で3年間のMCDの活動をまとめた「MCDMIX」を発行し卒展会場で配布した。
授業科目 大学院 メディアデザイン研究		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
担当学生が目指す表現形態を重視し研究を進める。学生独自の世界感を客観的にとらえ直すことを重視する。	主に画集や専門的な図版などの書籍、映像資料の使用。	
		現在大学院2年生となった学生には、紙媒体による表現と映像表現の両方で指導を進めている。

### 3. 学会等および社会における主な活動

h 学会等の名称	i 活動期間	j 活動概要その他
光村図書 高校美術 2	2008 年度改訂版 4 月より全国の高校にて使用。2010 年現在も継続掲載。	高校 2 年生用美術科教科書 P41、表現の手法 5「写真を使って」のページに参考作品として「Floating World」が使用されている。
色彩学会	2004 年より	